

2015年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体)

最終報告書



記入日 2015年11月20日

実践団体名		マキノ町地区防災プロジェクト		
連絡先		※高屋博之 0740-27-0356		
プランタイトル		みんなで防災チャレンジ		
		番号※	詳細	
1 プランの対象者		18	区民	
2 対象災害種別		1・6	地震・火災	
3 プランの目的		8	防災意識を高める	
4 協力・連携先		10	その他(消防署)	
5 プログラムの種類		13	体験学習	
参考 先進 事例	活動年度	年	団体名	
	参考内容			

※ 赤枠は別紙「記入上の留意点」の各項目から選択し、記入してください。

地域特性に応じた アレンジ・工夫点	高齢者や子供達でもできる防災について活動検証
実施スケジュール 内容・成果※	<p>5月：防災会議(防災士を講師)</p> <p>6月：消火栓の使用方法的考案</p> <p>7月～8月：子供防災訓練(ラジオ体操後) 高齢者防災訓練</p> <p>【成果】区民の防災意識の向上につながった。</p> <p>10月：区民向け防災マニュアル試案作成</p> <p>10月：反省会の開催</p> <p>【成果】区民オリジナル防災マニュアルを作成</p>
全体の反省・感想・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の中でも女性は積極的だが男性の参加が思ったより少なく感じた。 ・今後も、外部から講師を迎えて新鮮な話題を提供し活動を継続していくことが重要
今後の継続予定	・防災訓練の継続実施、防災マニュアルの見直し

※ 写真の添付など、枠内に収まらないときは裏面自由記述欄を使用してください。

2015 年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 最終報告書



自由記述欄 (必要に応じ、具体的な活動記録を自由様式で補足添付することが可能です。頁数自由)

みんなの防災訓練

目標1：消火栓・消火器をみんなが使えるようにする。

目標2：防災意識をもち続ける努力をする。



マキノ町地区防災プロジェクト

マキノ町辻区防災プロジェクト

集落には、防災について考えたとき、小型ポンプも無く、たとえあったとしても深刻な高齢化により現在の区民では普通に使える人がいなく、いざ火災時には初期消火に支障がきたします。平成27年5月31日(日)小川防災士を迎え講義をしてもらう。また、婦人会サロンにおいても防災活動に具体的にできることをにしてみようと話し合いました。



～高齢者対象防災訓練～

平成27年7月17日



★ サイレン後、命のバトンを持って避難訓練・ホワイトボードに必要事項記入。耳の遠い人には聞こえないことから呼びかけて避難する連絡体制が必要と感じる。



★消火器は概ね全員が使用可能。



★消火栓は筒先の圧力が高く少し危険。



- ★ 消火栓は従来は男性が村普請後の溝掃除等に使われており、現在は、消火栓箱も古くなり撤去されています。ホース一式は倉庫の奥にしまわれており出すにも時間がかかる状態で初期消火に支障をきたしています。また 65 ミリホースも重たくて搬送するのも苦勞します。訓練も 1 年に 1 回ではいざと言う時に役に立たないと思われま



- ★ 救助器具の爪付きジャッキについては数年前に配備されてあるにもかかわらず、使い方を知らない人を見受けられた。発電機は台キャスターが小さいため道が悪いところは押すのが難しい。



- ★ 炊き出しは、集落全体が農業者であることから、一週間の自給自足は可能であり、川の水も豊富であるが、皿にサランラップなどを敷いてご飯を盛る等工夫が必要である。今後は飲料水を確保して、訓練時に炊き出しに使用して常に準備する必要性を感じる。

～こども対象防災訓練～

平成27年7月20日～8月

子供については、夏休みのラジオ体操後の時間を利用したプチ防災訓練を数回行い、幼い頃からの防災教育の一環として火や煙の怖さを記憶に残してもらいざと言う時に正しい素早い行動ができるように楽しみながら行った。



【消火器】



【煙体験】



【天ぷら火災実験】



【消火栓】元大工さんが廃材を利用して作ってくれました。高齢者も使用できて好評です。



【防災器具の改良ポイント】

1、消防用ホースの改良

- ・65ミリから40ミリに変更（区民小学生以上なら誰でも使える）
- ・65ミリ20mホース1本を半分の長さに切り10mホース作成。
- ・ホースを背負うバックを作成。（里山対応）



2、搬送専用器具を作成し、防災器具が容易に楽に搬送できるようにした。



3、消防車が到着して素早く防火水槽が使用できるようにポールに補助器具を取り付け積雪時でもマンフォールの位置（黄色にペイント）がわかるようにした。



★明るい未来のために、活動の総まとめとして火災を中心としたこの集落で考えられる災害を想定して防災マップを作成しました。

